opusdei.org

27名の助祭叙階。 「受け入れなさい、 理解しなさい、寄り 添いなさい」

27名のオプス・デイの信徒に 助祭叙階を授けたフアン・イ グナシオ・アリエタ大司教 は、説教の中で、「キリスト の支配とは奉仕です」と語り ました。

2020/11/22

フアン・イグナシオ・アリエタ大司 教は27名のオプス・デイの信徒に助 祭叙階を授けました。新助祭の国籍は、ドイツ、ルーマニア、ブラジル、カナダ、イギリス、コートジボワール、スロバキア、スペイン、日本、ケニア、メキシコ、リトアニア、ナイジェリア、ペルーから本人でます。叙階式はローマにある属人区の国際神学校の天使の聖母教会で行われました。

司式司教はまた、「これが、本日祝っている祭日の中心のメッセージです。全宇宙の王であるイエス・キリストの祭日は、神の御子の支配は奉仕であることを思い起こさせるのです」。 (説教の全文はここから読むことができます)

オプス・デイの属人区長・フェルナ ンド・オカリス神父は、教会の内陣 から式に参列しました。叙階式ミサ の終わりに、オカリス師は叙階式に 参列できなかった新助祭の家族へ言 葉を向けました。「私の真心からの お祝いを皆さんに届けたいと願って います。そして、司祭職に向けて引 き続き養成期間にいる新助祭たちの ために力強く祈ってくださるように お願いします。できるならば、来年 5月には、ローマでお会いできるこ とを期待しています。今、天国で聖 ホセマリアがどれほど喜んでいるこ とでしょう。聖ホセマリアの取次を 通して、新助祭たちが、すべての人

を、受け入れ、理解し、愛することができるように祈りましょう。この旅路において、おとめマリアの母としての仲介を常に頼りにしてください。心からおめでとう」。

コロナ感染症への対策のため、叙階 式は限らられた参列者のみで執り行 われました。式の模様はインター ネットを通して配信されて、多くの 人々が視聴しました。

新助祭の氏名は以下の通りです。

Francisco Javier Alfaro Gutiérrez, Mariano Almela Martínez, Pablo Álvarez Doreste, Juan Manuel Arbulú Saavedra, Francisco Javier Barrera Bernal, Alexsandro Bona, Branislav Borovský, Gaspar Ignacio Brahm Mir, Kevin de Souza, Borja Díaz de Bustamante de Ussia, Juan Diego Esquivias Padilla, Rafael Gil-Nogués, André Guerreiro, Alejandro Gutiérrez de Cabiedes Hidalgo de Caviedes, Casimir Kouassi N'gouan, Fernando López-Rivera Muñoz, Josemaría Mayora Padilla, José Ignacio Mir Montes, Jaime Moya Martín, Juan Prieto Álvarez, Héctor Razo Tena, Vytautas Jonas Saladis, Fadi Sarraf Chalhoub, Fumiaki Shinozaki(篠崎迪明), Marc Teixidor Viayna, Álvaro Tintoré Espuny y Obilor Bruno Ugwulali.

フアン・イグナシオ・アリエタ大司 教の説教

親愛なるパドレ、親愛なる受階者の皆さん、親愛なるご家族の皆さん、 そして、友人の皆さん。

私たちがこの聖なるミサで祝い始め ている王であるキリストの祭日は、 私たちが置かれている状況の中で、 教会が助祭職によって皆さんに与えようとしている奉仕と慈善の使命について思い巡らす機会となります。

先ほど耳にした聖マタイによる福音書の中で、イエスは最後の審判がどのようなものであるかについて、「人の子は、栄光に輝いて天使たちを皆従えて来るとき、その栄光の座に着く。そして、すべての国の民がその前に集められる(マタイ25.31-32)と宣言しています。

いたときに食べさせ、のどが渇いて いたときに飲ませ…。

福音書の記述によると、すべす。
「まの反応を示したちは、第きの反応を示したちは、のを見ては、のを見てはいるのを見ておられるのが渇いておられるが渇いたするのでれての人をして、ではにいたの人をはにいたの人をはいかったの人のはおいなかったのとも、です。というないなかったのです。

しかし、人間的に言えば、さらに驚くべきことは、常に公正で公平である主が、これらすべての行為を、自分自身に向けられた個人的なものとされていることです。隣人に対する私たちの行動を、ご自身に向けられた愛の行為、あるいはその反対の行

為として受け止めておられるので す。

ここで主は、私たちの側に置かれた ご自身の子らの中に、また物理的に 遠く離れている人たちの中にも、主 ご自身がいることを宣言していま す。もし、私たちが心を向けるなら ば、聖徒の交わりによって、遠くの 人々も近くなるのです。

霊的成長にとって根本的なものは、 まさに自分自身の生活の中でこの神 秘を深く生きることにあります。ま た、キリスト者としての戦いの核心 は、毎日、あらゆる状況で、イエス の行動に倣い、この神秘を行いに表 すことにあります。

聖テレジアの言葉にあるように、神への愛の確かなしるしは、隣人愛を生きることにあります。私たちの神への愛を測ることはできませんが、自分が隣人をどのように愛しているかは、見ることができるのです。

ここで皆さんに助祭叙階を授けるこ とができることを、私がどれほど幸 せに思っているか想像できることで しょう。この天使の聖母教会は、私 たちのパドレ(オプス・デイ創始 者、聖ホセマリア)が、大きな愛情 と信仰を持ってここに建立されるこ とを望まれたのです。当時ここに住 んでいた人々は、様々な喜びや困難 の中で思い出を重ねて行きました。 先だっての8月、トル・ダヴェイア であなたたちと素晴らしい日々を共 に過ごしましたね。オプス・デイが 私たちに与えてくれる様々な事を共 に楽しむことができました。主の百 倍の報いの一部に対して感謝しま しょう。

先週の火曜日の夜にパドレ(オプス・デイ属人区長・フェルナンド・オカリス師)から、今日の叙階式の司式を頼まれた時、私が驚いたと言えば嘘になるでしょう。というのも、私たちが置かれている状況を考

えると、消去法によって、私が叙階 式に関わる可能性は高いと思ったと思わることを ました。そして、そうなること気付ました。当初の計画通りに叙といること はました。当初の計画通常と司にの計画が はなかったことは残念日、のようなはで式で す。ことを与えて りありがとうございます。

をするための助けとなったこでしょ う。

王であるキリストの祭日はまた、歴 史の主の神的な視点からこれらすべ ての出来事を見るように私たちを招 いています。いつの時代も、そし て、私たちも経験してきたように、 神はどんな状況からも実りを引き出 されます。たとえ私たちにはそれが どのようになされるのかは分からな いとしてもです。したがって、神と その愛に満ちた摂理を常に信頼する ことは、確かな避難所となります。 それは、現在のように様々な困難に ある時だけではなく、いつもそのよ うに生きるべきなのです。私たちを 限りなく愛してくださり、安全な道 を整えてくださる御父の御腕にすべ てを託して生きるのです。聖ホセマ リアが繰り返したように、この委託 の「確かで美味な」実りは、何もの によっても奪られることのない

gaudium cum pace (喜びと平和) なのです。

第一朗読では、助祭として、そして 後に司祭としての皆さんの務めが要 約されています。「わたしは失われ たものを尋ね求め、追われたものを 連れ戻し、傷ついたものを包み、 弱ったものを強くする(エゼキエル 34,16)。あなた方は、人々に会いに 行くように召されているのであっ してはなりません。

皆さんが何年も前に受けたオプス、 でイへの召命というたまものは定まり限って、「より限定をです。 です。パドレが最後のいたが最後のです。 のです。パドレが最後のしたが最後のです。 が最もしたが新した方が。 を要求するのです。 が続けることを要求するで生きると が続いて、神の恩恵のため、 は、ボプス・デイ属人区のため、 聖十字架司祭会のため、全教会のための奉仕を発展させていくためなのです。

これが、本日祝っている祭日の中心 のメッセージです。全宇宙の王であ るイエス・キリストの祭日は、神の 御子の支配は奉仕であることを思い 起こさせてくれます。 親愛なる受階者の皆さん、無私の心 で奉仕することを知っている人がい るとすれば、それはあなた方の両親 です。すでに天国で報いを受けてい る方もおられるでしょう。そのこと を私よりもあなた方が良く知ってい ることでしょう。あなた方の両親 は、あなた方一人ひとりのために、 自分のことを顧みずに頑張ってくれ たのです。彼らは喜んで自分自身を 捧げ、信仰の種をあなた方の中で成 長させてくれました。今、皆さんの 叙階の喜びを両親も味わっているこ とでしょう。しかし、その喜びに、 一緒にいることのできない苦しみが 加わります。

この叙階式をネット配信を通してご 覧になっている、受階者の両親、親 戚、友人の方々にご挨拶したいと思 います。聖ホセマリアがこのような 時に語った言葉ですが、彼らはまだ あなた方を必要としています。祈り と愛で支えることを怠らないでくだ さい。彼らのために、そして今日から始まる奉仕職のために、今、あなた方が彼らと一緒にいることのできない悲しみを捧げてください。そして、主は非常に寛大な方ですから、その悲しみさえも善いものに変えてくださることを信じて、大いに喜んでください。

そろそろ終わりにしようと思いま す。先週の水曜日、教皇フランシス コは祈りに関するカテケージスの中 で、聖母マリアの祈りについて話 し、マリアの寛大な応えはその祈り から生まれたことを教えてください ました。「マリアは、独自に自らの 人生を方向づけることはしません。 神にその歩みの手を取られ、御旨の ままに導かれることを待ちます。マ リアは従順です。その快く自分を差 し出す態度をもって、この世におい て神と共に起きた様々な出来事を受 け入れたのですと教皇は述べていま す。

今日、マリアの奉献を祝う私たちは、天の御母の御手に委ね、聖母と同じ望みを持つことができるよう願いましょう。イエスが私の人生を支配されますように。特に、奉仕職を始める皆さんをイエスが常に導いてくださいますように。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/jisai-jokai-2020-11/(2025/11/22)